



行動変容イノベーションが導く、  
その先の、道へ。

# ナツジとデザイン思考の 融和による政策イノベーション

令和4年3月31日（木）

令和3年度政策開発推進事業 最終報告書



北海道行動デザインチーム  
Hokkaido Behavioral insight Team

## 【事業メンバー】

所属	職・氏名
環境生活部環境局循環型社会推進課	主任 倉野 健人
環境生活部総務課	主事 聖 未知矢
環境生活部環境局自然環境課	主事 加藤 葵
経済部食関連産業局食産業振興課	主事 阿部 泰己
水産林務部水産局水産経営課	主任 岩元 あや
議会事務局総務課	主事 金子 賢樹
空知総合振興局保健環境部環境生活課	係長 高橋 優
檜山振興局保健環境部環境生活課	係長 佐々木 洋志
留萌振興局保健環境部保健行政室健康推進課	保健師 古田 翔平

【事業実施期間】 令和3年5月～令和4年3月

# 目次

## ▶ 概要説明 (ナッジとデザイン思考)

事業趣旨及び内容

事業実績

道政への適用に向けて

# ナツジとは

## ナッジ (nudges)

人々の選択肢を奪うことなく、環境を整えることで、本人や社会にとって望ましい行動をするようにそっと後押しする手法。



ナッジの直訳は、「肘でそっと突く」

引用：横浜市行動デザインチームHP <https://ybit.jp/aboutbi>

ナッジは、非合理で様々な行動特性（癖）を持つ等身大の人間を考慮。



「リスクが分かる」

「将来も見据えて判断」



完璧な  
注意力

完璧な  
理解力



完璧な  
判断

完璧に  
行動



「隅から隅まで見る」

わかっていても、  
なかなか行動できない...



「必ず行動に移す」

## 英国ナッジユニットの事例

納税の催促にあたり従来政策手法（財政、情報、規制等）とナッジを補完的に機能させた。

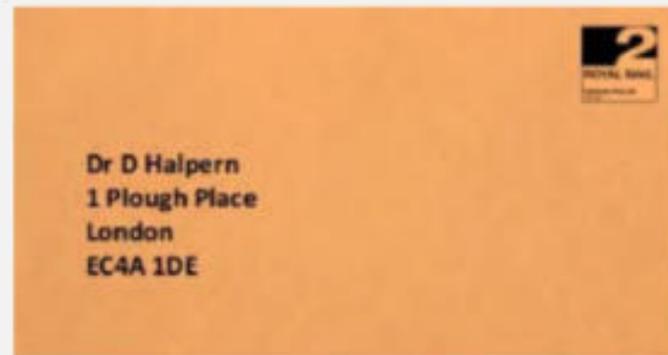


ナッジ実践による費用対効果（2010～2011年）

約**22**倍

※ナッジによる効果は、  
(歳出減&歳入増) ÷ 経費 で算出

Before



After



- ✓ **日本版ナッジ・ユニット“BEST”**  
(平成29年4月発足、事務局：環境省)

**R3 環境省ナッジ予算 27 億円**



- ✓ **地方自治体のナッジ・ユニット**  
横浜市（H31設置）、岡山県（R1設置）など多数。

## 北海道では・・・

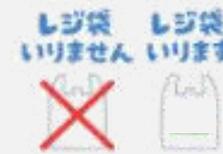
R2.3に**北海道行動デザインチーム（HoBiT）**を職員有志で設立。  
道内でナッジ等の情報発信、事業を展開中。



R2政策開発推進事業における事例



消毒液の利用促進



レジ袋削減の取組

- ☑ 等身大で非合理的な人間を前提とする「ナッジ」は、合理的な人間を前提とした従来手法にイノベーションを起こす手法になりうるもの。
- ☑ しかし、「ナッジ」は手法でしかない。  
⇒アウトカム達成には、**デザイン思考による課題設定や政策設計が必要**

解決したい政策課題  
の原因は？

ユーザー観察、  
インタビューは十分か？

行動介入の対象は？  
いつ、どこで、どのように介入？



目指すべきアウトカムは？

効果検証は可能か？

事業設計に必要な  
定性・定量データは十分か？

# デザイン思考とは

製品など「モノ」の先にある「コト」に**焦点**を当て、  
**等身大の人間**が取る**行動**を想像、**共感**し、  
求めるアウトカムを前提に全体像を描く考え方。



本事業の「デザイン」とは、  
**「広義のデザイン」**を指します。

## 広義のデザイン

商品・事業コンセプトを提案する設計力。  
(ニイノベーション能力)

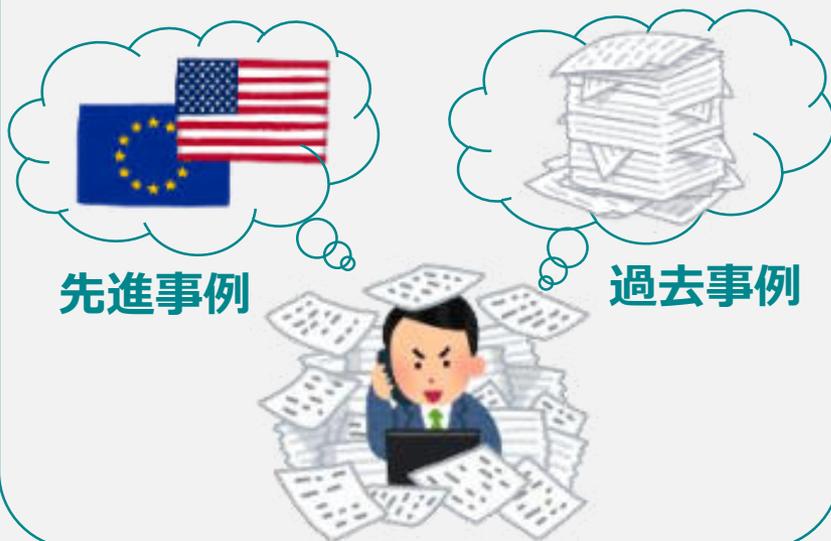
## 狭義のデザイン

見た目や使いやすさのこと。

(参考) デザインの語源はラテン語 “Designare”。意味は「計画」。

## 従来政策

⇒過去事例等が参照軸



## これからの政策

⇒複雑で多様化した課題に対し、  
解決策の模索が必要

過去事例？先進事例？



参考文献 宇野重規ほか『わたしの構想』2020年2月号NO.46 NIRA総研

これまでどおりの提供者（サプライサイド）視点ではなく、  
**利用者（ユーザー）視点で行政サービスをデザインし、  
利用者中心のサービス提供**を行っていく必要

世界最先端 I T 国家創造宣言・官民データ活用推進基本計画（2017年 閣議決定）

⇒デザイン思考を行政サービス改革の基本思想として位置づけ。



「県民の本音」を起点にした  
これからの政策形成

【デザイン思考の活用について  
滋賀県職員若手有志からの提言】

～ Policy Lab. Shiga

滋賀県庁の職員有志によるプロジェクト  
「Policy Lab. Shiga」（2017年～）

⇒デザイン思考の活用を知事に提案

参考

滋賀県、「「県民の本音」を起点にしたこれからの政策形成 ～デザイン思考の活用について滋賀県職員若手有志からの提言～」 <http://policylab.shiga.jp/advocacy>

「ナッジ」によるアウトカム（行動変容）達成には、  
「デザイン思考」による課題設定や政策設計が必要

## デザイン思考のフレームワーク ※



課題の  
発見



アウトカムの  
特定



ナッジの  
開発



介入と効果検証の  
実践

人間中心のデザイン（等身大の人間がとる行動を想像、共感）

本事業は、「ナッジ」×「デザイン思考」の  
両輪により、道政策の質向上に貢献する

ナッジ

・・・人間の非合理性を考慮し、望ましい行動を促す。

デザイン思考

・・・道民を徹底的に観察し、全体像を描く。

## 例) エゾシカの交通事故対策



☑ デザイン思考により、ユーザー（旅行者）が交通事故を起こすまでのプロセスを洗い出す。

☑ 各プロセスにおけるタッチポイントやユーザーの心理要因を分析することで、効果的なタイミングや内容のナッジが可能（フレームワーク“EAST”を活用）。

- ☑ ナッジの作成は、デザイン思考による事業設計を前提にしたうえで、国内外で開発が進む**フレームワーク（EAST等）**を活用することが有効。

満たすべき条件が整理された**チェックリスト型フレームワーク**

## 例 EAST<sup>®</sup> (Behavioural Insights Team, UK)

### EASY (簡潔に)

- デフォルト
- 摩擦を減らす
- アクセスしやすく、利用しやすく

### Social (社会的に)

- 他人の環境配慮行動を強調
- アイデンティティを刺激、適切なメッセンジャー
- 社会的つながり、仲間からの圧力

### Attractive (魅力的に)

- 注意を引く
- メッセージは「前向き」「共通の利益」
- インセンティブを賢く使う

### Timely (タイムリーに)

- 事前のコミットメント、現在の利益を強調
- 変化を受け入れるタイミングを狙う
- 計画作成と遂行をサポート

# 目次

概要説明 (ナッジとデザイン思考)

▶ 事業趣旨及び内容

事業実績

道政への適用に向けて

# 事業趣旨

「ナッジ」と「デザイン思考」のソリューションを道庁及び道内市町村等に浸透させることで、道内における公共サービスの成果向上と定量化を推進する。



費用対効果の高い公共サービスの展開へ

「北海道行動デザインチーム（HoBiT）」のR2政策開発推進事業で得た知見やネットワークを活用の上、**ナッジとデザイン思考の政策適用による公共サービスの向上**を目指し、R3政策開発推進事業を展開する。

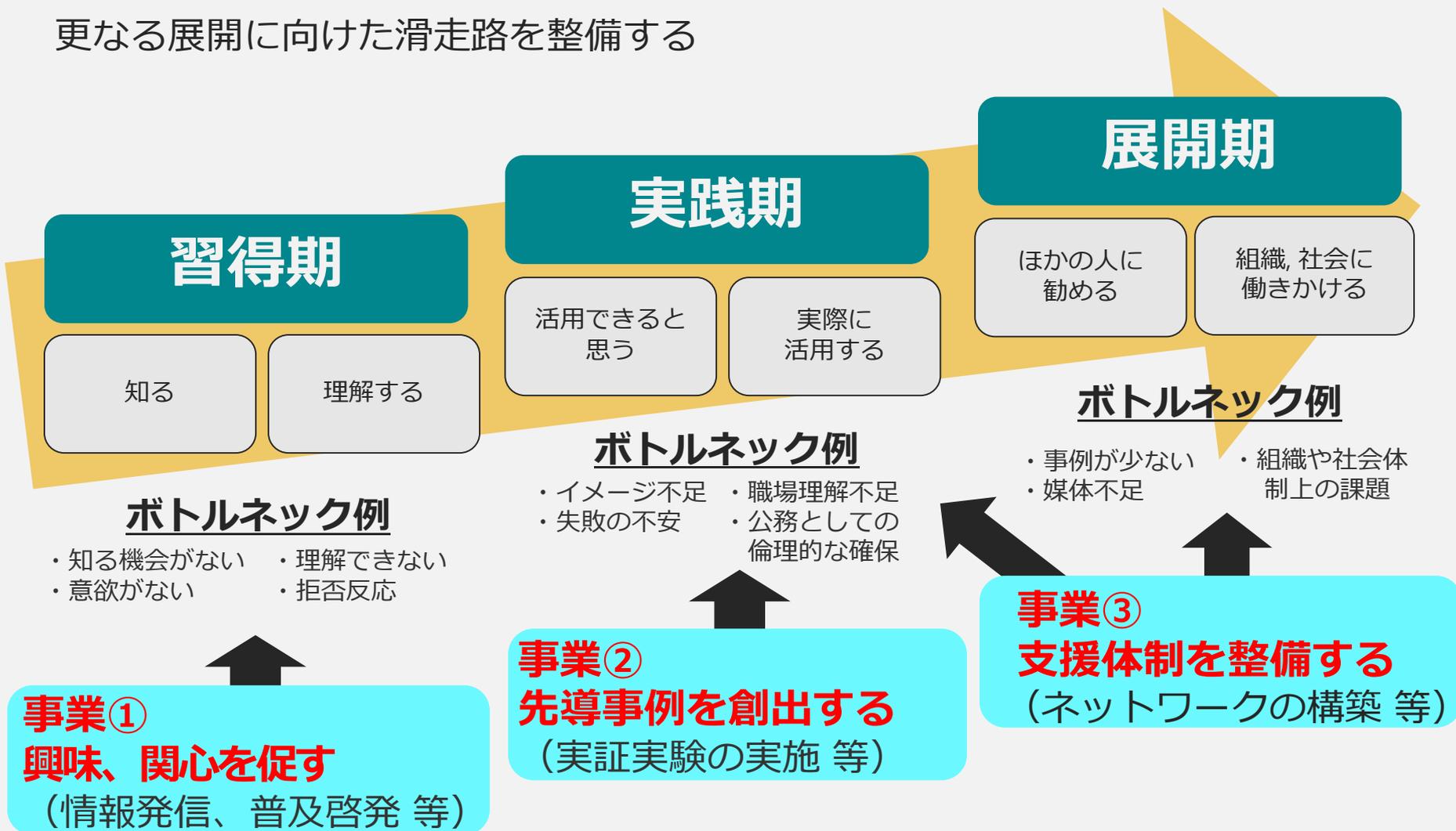
【活動を通して目指す機能】

- 1) 情報発信
  - 2) 先導事例の創出
  - 3) 政策への活用支援
  - 4) 道内外のネットワーク形成 など
- 道内における**情報ハブ拠点**へ



政策への活用促進に向け、段階に応じたアプローチをモデル実施

⇒習得期、実践期、展開期ごとに、  
更なる展開に向けた滑走路を整備する

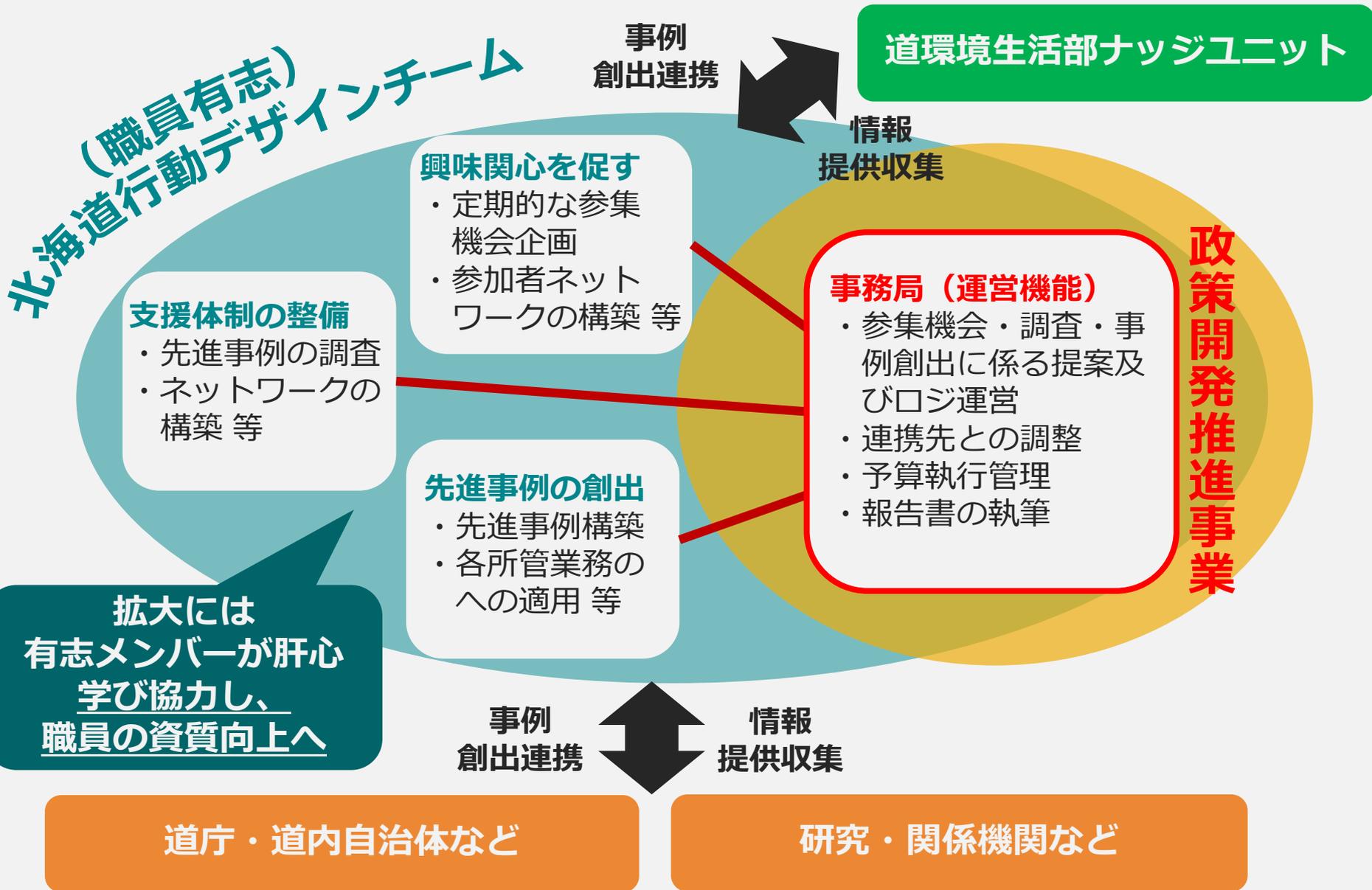


各事業の進捗管理、議論について、2週間に1度開催する**全体会議**を利用。  
このほか、**情報共有ツール“Slack”**による情報共有等を実施したほか、  
各事業単位で2～3人のチームを形成し、事業単位での打ち合わせを適宜実施。

計**17回**の全体会議を実施。  
**対面会議とオンラインを併用**し、  
振興局在勤、在宅勤務のメンバーも  
参加できる体制を確保。



全体会議の様子



# 目次

概要説明 (ナッジとデザイン思考)

事業趣旨及び内容

▶ 事業実績

道政への適用に向けて

# 事業①

興味、関心を促す

庁内職員や道内市町村職員を対象とした**普及啓発（行事・研修会等）を展開**

- 認知していない層への**理解促進～実践に向けた道筋を整備**
- **一緒に事例を創出していく仲間づくりへ**

## 庁内・道内市町村向け



- ✔ ナッジ、デザイン思考の利点を行事、研修会で訴求
- ✔ 行事、研修会のほか、庁内電子掲示板も活用し、多様な手段で発信

## 庁外・道外向け



- ✔ 庁外・道外に向けた情報発信を行い、全国的なネットワークを創出・強化。

# 事業①【実績】庁内・道内市町村向け 26

道庁・市町村職員を対象とした研修 計 **5** 件



例) ナッジセミナーを開催

講師：佐々木准教授（東北学院大学）

日程：11/19(金)19:00～

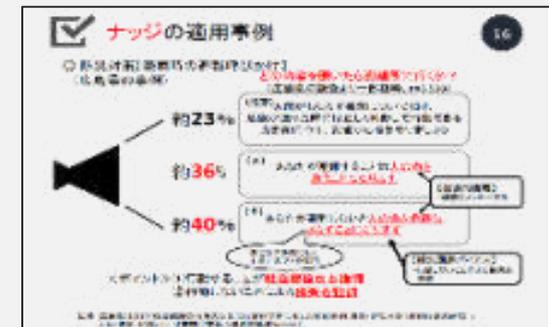
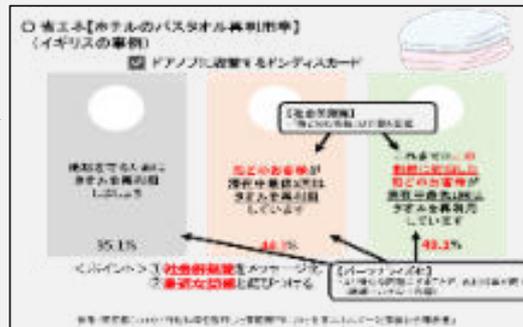
受講人数：62名

このほか、保健所やゼロカーボンプロジェクトチームへの研修など、各分野に対応した研修やワークショップ形式の研修も実施。

庁内電子掲示板での情報発信 計 **4** 回

ナッジの事例を紹介

(右図) 掲示板の一部を抜粋



## ☑ 学会、研究会等における外部発信 計 8 件

例) NPO法人PolicyGarage  
「第34回政策イノベーション研究 (R3.12.8)」  
に登壇し、HoBiTの活動を全国に発信

このほか、

- ・ BECC JAPAN 2021(気候変動・省エネルギー行動会議)
  - ・ 第21回「野生動物と交通」研究発表会
- など、アカデミアや民間に対しても情報発信



## ☑ 情報誌等への寄稿による情報発信 計 4 件

例) 時事通信社ウェブサイト「iJAMPポータル」  
(R4.3.3掲載)にて、HoBiTの活動を全国に発信

右図 下記Webサイトから引用

引用元：時事通信社iJAMPポータルサイト

<https://portal.jamp.jiji.com/portal/news/detail/20220130N0175>



## 事業①【総括】興味、関心を促す

- ☑ 庁内・道内市町村職員を対象にした研修や情報発信を実施。  
⇒職員から事業改善の相談を受けるなど、ナッジ、デザイン思考の必要性が認識されはじめ、ナッジ、デザイン思考に関する**職員の理解が促進**された。
- ☑ 研究会や学会等を利用し、庁外・道外へ積極的な情報発信を実施。  
⇒ナッジ、デザイン思考に取り組む全国の自治体職員や、アカデミア、民間企業など**多様な主体とネットワークを形成**できた。

## 事業②

先導事例を創出する

- 試行的に**北海道での事例創出を行い、政策適用に向けた先導事例を創出**
  - 「**やれるかも?**」と思わせる事例を目指す
  - 実施する上では**専門家等と連携し、効果を評価**

## 先導事例の取組事例（抜粋）

### ボトムアップによるモデルケース創出の取組み

#### ✓ エゾシカの交通事故対策

- ・「ナッジ×デザイン思考」による事業設計（R2政策開発推進事業で一部検討済み）

#### 【連携先】

- ・根釧地区レンタカー協会
- ・北海道開発技術センター
- ・一橋大学 ほか



### 事業設計・伴走支援の取組み

#### ✓ 大学構内における食ロス対策

- ・ナッジ、デザイン思考に取り組み関係主体を支援

#### 【連携先】

- ・えべつ地球温暖化対策協議会
- ・北海道情報大学



事例の検討・創出に向けたスタートアップとして、

**「ナッジ入門研修」** および **「デザイン入門研修」** を受講。

**受講日：令和3年6月4日(金) 18:30~21:00**

**講師：NPO法人 Policy Garage 代表理事 津田 広和 氏、理事 志水 新 氏**

また、各事例においては、NPO法人 Policy Garageとオンラインゼミにて議論のうえ検討を進めた。



研修の様子

**専門的なノウハウの獲得、  
連携体制の構築**

**NPO法人 Policy Garage**について

省庁や自治体職員等が中心となったプロボノNPO。取組の一つに「ナッジ及びデザイン思考の政策適用」を掲げ、省庁及び自治体対象に研修事業や事例創出支援等を展開。令和3年1月設立。

## (1) ボトムアップによるモデルケース創出の取組み

「ナッジ×デザイン思考」を自ら実践し、モデルケースを創出する。

### 事例1 エゾシカの交通事故対策

## (2) 事業設計、伴走支援の取組み

ナッジの知見とデザイン思考の観点から、依頼者の事業設計・伴走支援を行う。

### 事例2 道職員の石けん手洗い促進

支援先：新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室

### 事例3 大学構内における食ロス対策

支援先：えべつ地球温暖化対策協議会、北海道情報大学

### 事例4 飲酒運転検挙者への保健指導促進

支援先：環境生活部、保健福祉部

## (3) 官学連携の取組み

慶應義塾大学等の“VALUE Project”に参画し、道内自治体と連携のもと、ナッジとデザイン思考による課題解決を試行する。

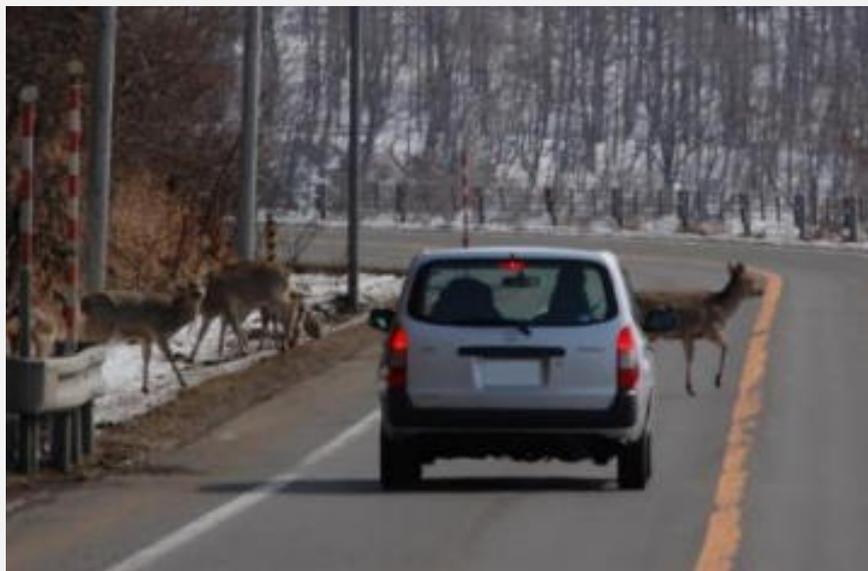
### 事例5 高齢者のワクチン接種行動の促進（VALUE Project）

**(1) ボトムアップによる  
モデルケース創出の取組み**

## 目的

「ナッジ×デザイン思考」を自ら実践し、ボトムアップによるモデルケースを創出することで、その有用性を示すとともに、**若手職員を中心とした実践層**が取り組むきっかけを作る。

## 事例1 エゾシカの交通事故対策



デザイン思考のフレームワーク  
(発見、特定、開発、実践)に  
沿った事業設計を試行。

本事例は、「ナッジ×デザイン思考」の実践に伴い、多くの専門家、有識者から助言、協力をいただいた。

- 東北学院大学 佐々木周作 准教授
- 国立環境研究所 久保雄広 主任研究員
- 一橋ビジネススクール 山本翔平 特任講師
- 北海道開発技術センター
- NPO法人Policy Garage
- 全国自治体ナッジユニット

# 事例 1

## エゾシカの交通事故対策

【目的】 道内特有の課題であるエゾシカの交通事故を減少させる

【背景】

- ✓ エゾシカとの交通事故件数は年々増加傾向にある（4年連続最多）。
- ✓ 柵の設置等の物理的な対策も有効だが、エゾシカの道路への侵入を全て防ぐことは困難。

柵等の道路侵入対策に加え、**ドライバーがエゾシカの特徴を知り、安全運転を心がけることが重要**であり、**ナッジによる訴求が有効**ではないか。

**アウトカム** エゾシカとの交通事故を減少させる

**対象場所** 釧路駅前のレンタカー店

**対象者** レンタカー利用者（観光客）

本事例は、  
「ナッジ×デザイン思考」※  
の実践により課題解決を試行



①発見



②特定



③開発



④実践

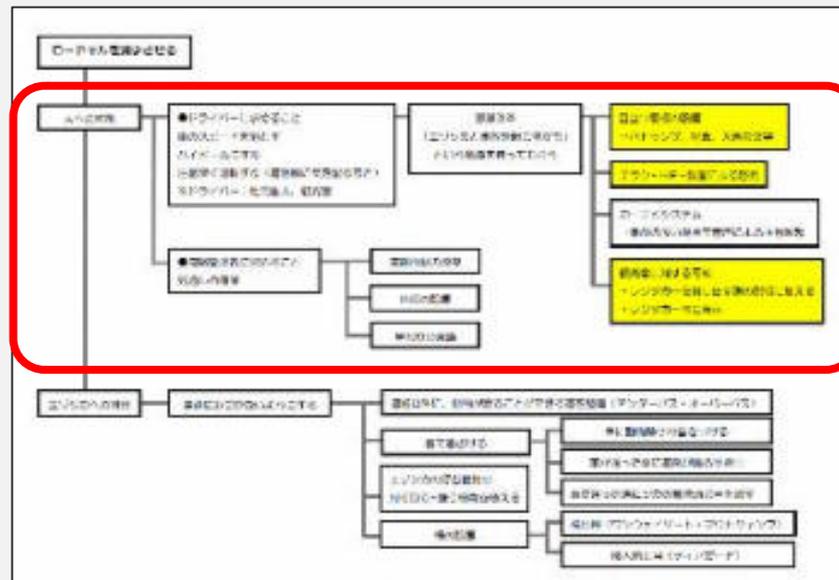
※デザイン思考のフレームワークのうち「発見」「特定」のフェーズの一部については、

R2政策開発推進事業にて実施済み。参考 北海道総合政策部政策局HP：<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ssa/puopo.html>

## 発見

### ロジックツリー

- 「人への対策」と「エゾシカへの対策」に課題を因数分解。
- 分解した課題のうち、「人への対策」としてドライバーの意識改革に着目。  
**地元住民と観光客への周知**を軸に検討することとした。



ロジックツリー

### 専門家等へのインタビュー

- 一般社団法人 北海道開発技術センター、北海道開発局にインタビューを実施し、エゾシカの交通事故対策に係る最新のエビデンスや、既存施策の内容について知見を得た。

## 🎯 特定

### アプローチ表、チェックリスト

- ☑ インタビュー結果や文献の知見をもとに、**交通事故が起きるまでの文脈**と現時点で**想定される介入内容等**をアプローチ表で整理。
- ☑ チェックリストを使用し、アプローチの容易さ、効果検証に必要なデータ取得の観点から、**レンタカー利用者（主に観光客）への注意喚起**を課題に選定。

目標	Social Context		Stakeholders		Step-Through-Action 実行・検証	
	課題の背景 (現状/課題)	介入の必要性 (なぜ/なぜ)	介入の目的 (なぜ/なぜ)	介入の手段 (何を/何を)		
1. 観光客の交通事故を減らすこと	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。
2. 観光客の交通事故を減らすこと	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。	観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。また、観光客の交通事故は、観光客の安全と観光客の満足度を低下させる。

アプローチ表

### レンタカー利用者への注意喚起

- ・レンタカー事業者等からの協力を得ることができる
- ・効果検証のためのデータが得られやすい
- ・タッチポイントが複数あり、アプローチしやすい

チェックリストで選定した課題のポイント

## 🎯 特定

### ジャーニーマップ

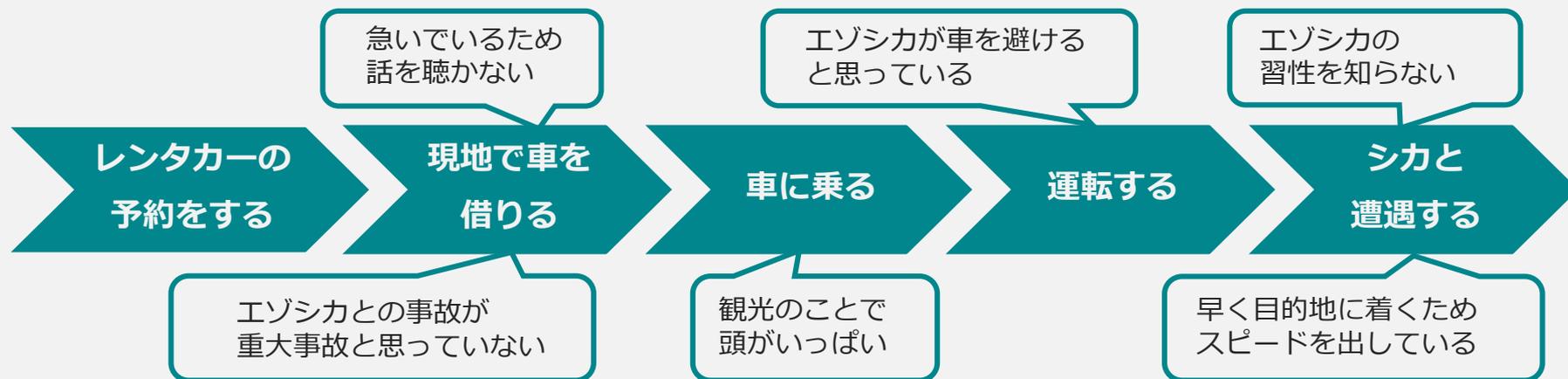
- ✓ 特定した課題に対し、ターゲット（レンタカー利用者（観光客））がレンタカーを借り、運転するまでの「行動」と「心理・思考・感情」を洗い出し。
- ✓ 実現可能性やタイムリーな訴求の観点から「車内介入が有効」という示唆を得た。



## 🎯 特定

### プロセスマップ

- ✓ ジャーニーマップの作成により明確になった**ターゲットの行動と心理要因**をもとに、**プロセスマップ**を作成し、介入のタイミングをあらためて整理。



### 介入におけるポイント

- ✓ エゾシカの大きさや習性、**事故の重大さ**を伝える
- ✓ 実現可能性やタイムリーな訴求の重要性から  
**運転中に思い出してもらうための車内での仕掛け**が必要



## 開発

フレームワーク“EAST”の各要素で整理 (Easy, Attractive, Social, Timely)



レンタカー店協力のもと、「釧路エゾシカ事故ゼロチャレンジ」の呼びかけと、カーナビ周辺等にステッカーを設置。



行動指示の簡略化 (Easy)

損失回避 (Attractive)

主体性を引き出すチャレンジの呼びかけ (Social)

“地元運転手”は約8割が注意※ 社会規範 (Social)



運転中に思い出す (Timely)



ステッカー

行動指示の簡略化 (Easy)

吹き出し効果 (Attractive)

チラシのデザインは、デザイナーOyuri氏が担当した。





## 実践

期 間	A店舗	B店舗	C店舗	D店舗	E店舗
介入前 2/7~3/6 (4週間)	アンケートの実施（ベースライン調査）				
	WEB	WEB	紙	紙	WEB
介入後 3/7~4/3 (4週間)	従前より配布しているチラシを配布		HoBiTが作成したチラシを配布		
	ステッカーによる行動介入				
	アンケートの実施（ベースライン調査）				
	WEB	WEB	紙	紙	WEB

店舗毎に調整した結果、

A店舗、B店舗は従前より使用しているチラシ（北海道開発局作成）を配布。

各店舗のオペレーションに従い、アンケートはWEB版と紙面版で分けて実施。

## 実践 (今後の予定)

☑ R4.4にアンケートによる実証結果を集計、検証予定。

**エゾシカとの事故に関する調査**

レンタカーを運転された方へ  
**WEBアンケート**  
ご協力をお願いします

エゾシカとの事故に関する調査。エゾシカとの事故は、ドライバーの注意や運転技術、道路状況、エゾシカの行動パターンなどによって発生します。このアンケートは、レンタカーを運転された方から、エゾシカとの事故に関する情報を収集し、今後の事故防止対策に活用させていただきます。

**アンケート回答方法**

スマートフォンやPCからウェブページにアクセスして回答ください。  
URL: <https://www.harp.jp/ja/19Chikub.jp>

**アンケート期間**  
2022年2月7日(月)～3月9日(水)

今後のエゾシカ事故対策のため、積極的な回答をお願いします。

北海道行動デザインチーム  
Hokkaido Behavioral Insight Team

アンケートWEB版

**運転手の皆さまへ**  
**エゾシカ事故に関するアンケート**

このアンケートは、エゾシカとの事故を防ぐために、レンタカーを運転された方の経験や、エゾシカとの事故に関する情報を収集し、今後の事故防止対策に活用させていただきます。

**質問 ①** 運転中に何回エゾシカを見ましたか？

0回 1回 2回 3回以上

**質問 ②** 事故に遭わないよう林間道路ではどのくらい減速しましたか？

40km/h以上減速 (40km/h以上減速) 30km/h以上減速 (30km/h以上減速) 20km/h以上減速 (20km/h以上減速) 10km/h以上減速 (10km/h以上減速) 減速しませんでした (減速しませんでした) 50km/h以上減速 (50km/h以上減速)

**質問 ③** 事故の平均修理費は、どれくらいだと思いますか？

10万円以下 (10万円以下) 10万円～20万円 (10万円～20万円) 20万円～30万円 (20万円～30万円) 30万円～40万円 (30万円～40万円) 40万円～50万円 (40万円～50万円) 50万円以上 (50万円以上)

**質問 ④** 運転する目的はどのくらいですか？

Q1 性別 [ 女性 男性 その他 ] Q2 目的 [ レジャー レジデンス その他 ]

Q3 年代 [ 20代 30代 40代 50代 60代以上 ]

Q4 人数 [ 1人 2人 3人 4人以上 ]

ご回答ありがとうございます。

北海道行動デザインチーム | Hokkaido Behavioral Insight Team

アンケート紙面版

## (2) 事業設計・伴走支援の取組み

## 目的

ナッジの知見とデザイン思考の観点から、**依頼者の事業設計・伴走支援を行う**ことで、庁内、道内の関係者に「ナッジ×デザイン思考」の有用性を広める。

### 事例2 道職員の石けん手洗い促進



支援先：  
新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室

### 事例3 大学構内における食ロス対策



支援先：  
えべつ地球温暖化対策協議会  
北海道情報大学

### 事例4 飲酒運転検挙者への保健指導促進



支援先：  
環境生活部、保健福祉部

## 事例 2

# 道職員の石けん手洗い促進

【目的】 庁内トイレにおける職員の石けん手洗い率向上を図る。

### 【背景】

- ✔ 新型コロナウイルス感染症等の感染防止対策として石けん手洗いが有効。
- ✔ 一方、庁内トイレを利用する職員は、手洗い時に石けんを使わないことが多い。
- ✔ トイレ内に石けん手洗いを呼びかけるポスターを掲示しているが効果は薄い。

新型コロナウイルス対策本部指揮室からの要請を受け、  
庁内トイレにおいて、ナッジによる介入を実施

**アウトカム** 庁内トイレを利用した職員の手洗い時における石けん使用率向上

**対象箇所** 本庁舎 6階・7階 北側男子トイレ

**対象箇所** 対象トイレを利用する職員

**現場観察** 対象トイレの構図・利用者の行動を観察し、介入場所・内容を決定

〈トイレ利用者の行動〉



**洗面台の前に立つ** 行動時は・・・

- ✓ 「手を洗う」行動に一番近いタイミング
- ✓ 洗面台まわりに掲示物を貼ることが可能

手を洗うため、洗面台へ目線を落としたときに視界に入るよう掲示物を設置することにより、手洗い直前にメッセージを訴求することができる。

**介入物作成** トイレ利用者が「石けんを使おう」と思える掲示イラストを作成

➤ 北海道大学教授の助言を得て、掲示イラストを作成

〈イラストのポイント〉

- ✔ パッと見ただけで、「水洗いだけの場合」と「石けん洗いの場合」の差が分かる内容。
- ✔ 石けんの有効性が伝わるように、シンプルなデザインと数字を使用。
- ✔ 「石けんを使うだけでウイルスが減る」という**ポジティブな訴求**。

フレームワーク“EAST”の  
(Easy)

“EAST”のA  
(Attractive)

(イラストの掲示効果を比較するために、  
ネガティブな訴求内容も作成)

### 掲示パターン①

「石けん洗いだとウイルス1/100に」

- ・利益を強調する  
ポジティブな内容



### 掲示パターン②

「水洗いだけだとウイルス100倍に」

- ・損失を強調する  
ネガティブな内容



**介入結果** イラスト掲示により、石けん手洗い率は最大で約20ポイント上昇

### 期間

〈介入前測定〉10/25(月)～10/29(金)

〈介入〉11/8(月)～11/2(金)

### 測定方法

トイレ利用者の手洗いの様子を目視で観察

(各日午前・午後で1時間ずつ)

### 結果

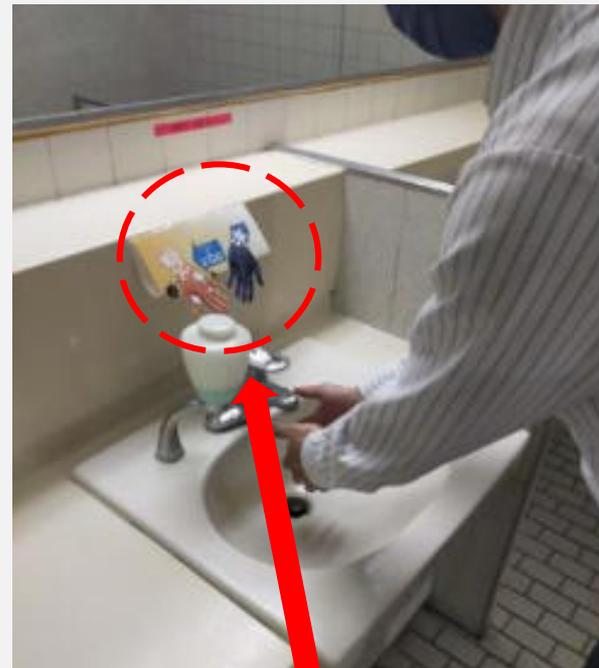
〈手洗い時に石けんを使用した人数・割合〉

場所	介入前 (n=364人)	介入後 (n=401人)	増加率
7Fトイレ (パターン①)	52人 (27.8%)	104人 (47.5%)	+ <b>19.7</b> ポイント
6Fトイレ (パターン②)	71人 (40.1%)	92人 (50.5%)	+10.4 ポイント
全体	123人 (33.8%)	196人 (48.9%)	+16.1 ポイント

※6F,7Fトイレの割合は、各階の利用者数に対する割合

〈掲示の様子〉

▼手洗い時の目線角度に合わせて立体的に掲示



〈パターン①〉



〈パターン②〉



## 事例 3

# 大学構内における食ロス対策

【目的】 北海道情報大学構内のコンビニエンスストアにおける食品ロス削減を図る

【背景】

- ☑ 北海道情報大学構内のコンビニエンスストアは、土日営業をしないため、金曜日の晩に消費期限が短い商品（惣菜等）が廃棄される。
- ☑ 廃棄量削減のためには、購入後すぐに食べる場合など、購入者が積極的に消費期限が迫っているものを購入することが有効。

えべつ地球温暖化対策協議会、北海道情報大学の連携事業に、HoBiT等の有識者が支援し、**学生が考案したナッジによる実証試験**を試行した。

**アウトカム** 金曜日の晩に廃棄される惣菜等の削減

**対象場所** 北海道情報大学構内のコンビニエンスストア

**対象者** 店舗利用者（主に大学関係者）



学生に対し、段階的に勉強会やワークショップによる支援を実施。  
勉強会、ワークショップの講師はHoBiTのほか、宇都宮大学 糸井川助教、  
ポリシーナッジデザイン合同会社 植竹代表が務めた。

- ✓ **勉強会（基礎編）** … ナッジ理論の基礎を習得する。
- ✓ **勉強会（実践編）** … ナッジの作り方を習得する。
- ✓ **ワークショップ** … 学生のアイデアをもとにナッジ案を議論する。



勉強会（基礎編）の様子



勉強会（実践編）の様子

## 考案した“ナッジ”

デザインを専攻する情報大ならではのアイデアとして、思わず集めたくなる「オリジナルシール」を学生が作製し、廃棄間近の商品に添付。

集めれば、食ロス貢献！



気になる集めたくなる

全8種

オリジナルシール



フレームワーク“EAST”のA (Attractive)



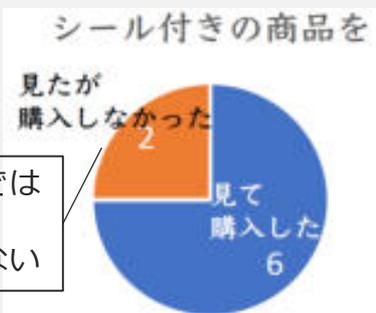
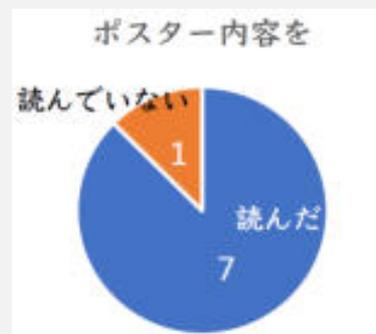
店内及び大学構内にポスターを掲示

## 結果と効果検証

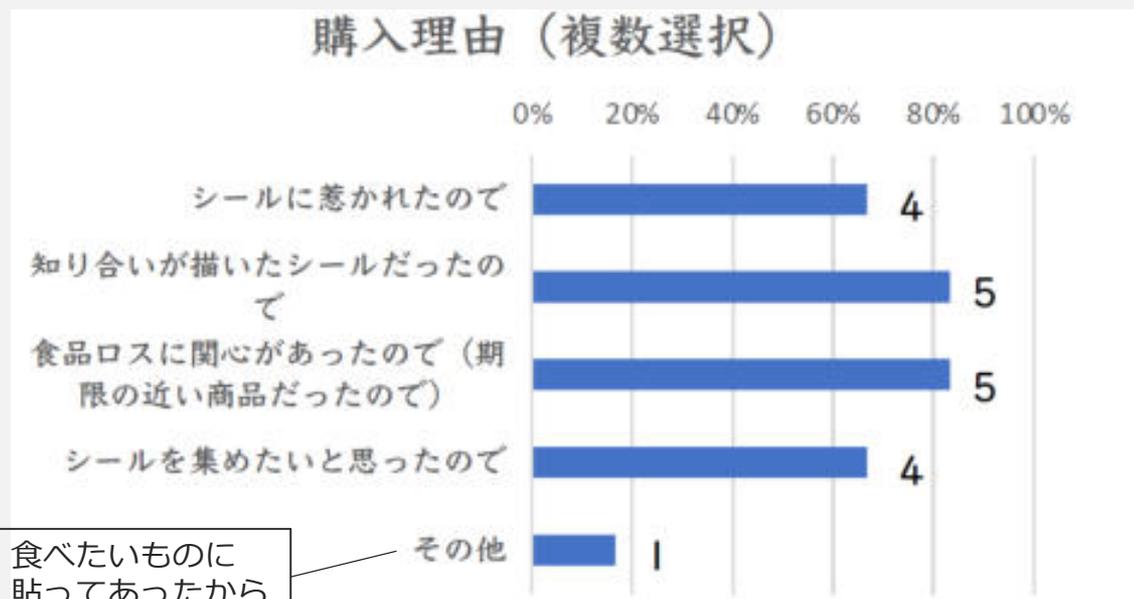
- ☑ 行動介入前後（商品へのシール添付前後）の比較において、廃棄数量、廃棄割合に減少は見られなかったが、学内の事後アンケート（オンライン）によれば、オリジナルシールの訴求効果が確認された。

※アンケート実施期間：R4.2.5～13、回答者数：13名

## アンケート結果（抜粋）



- ・欲しい商品ではなかった
- ・特に理由はない



食べたいものに貼ってあったから

## 事例 4

# 飲酒運転検挙者への保健指導促進

【目的】 飲酒運転検挙者への保健所等による保険指導率を改善する。

### 【背景】

- ☑ 道では、飲酒運転の予防及び再発防止を目的に、飲酒運転をした者に対し保健所等による保健指導を実施※。※北海道飲酒運転の根絶に関する条例に基づき実施
- ☑ 飲酒運転の検挙者に送付される「行政処分関係書類」に、保健指導の勧奨文書を同封しているが、**保健指導率が1%程度**と低調。

飲酒運転根絶を所管する環境生活部および保健指導を担当する保健福祉部を支援し、**ナッジ活用による保健指導率の改善**を試行。

### アウトカム

保健指導率の改善

### 対象者

- 想定する飲酒運転違反者
- ・アルコール依存症予備軍
  - ・遵法精神が希薄で、取締や事故に遭わなければよしと考える人

過去5年間の勧奨文送付数と指導者数

	H28	H29	H30	R1	R2
送付数	941	888	841	960	775
指導者数	11	12	4	13	11
割合	1.2%	1.4%	0.5%	1.4%	1.4%

環境生活部および保健福祉部に対し、段階的に勉強会やワークショップ等による支援を実施。

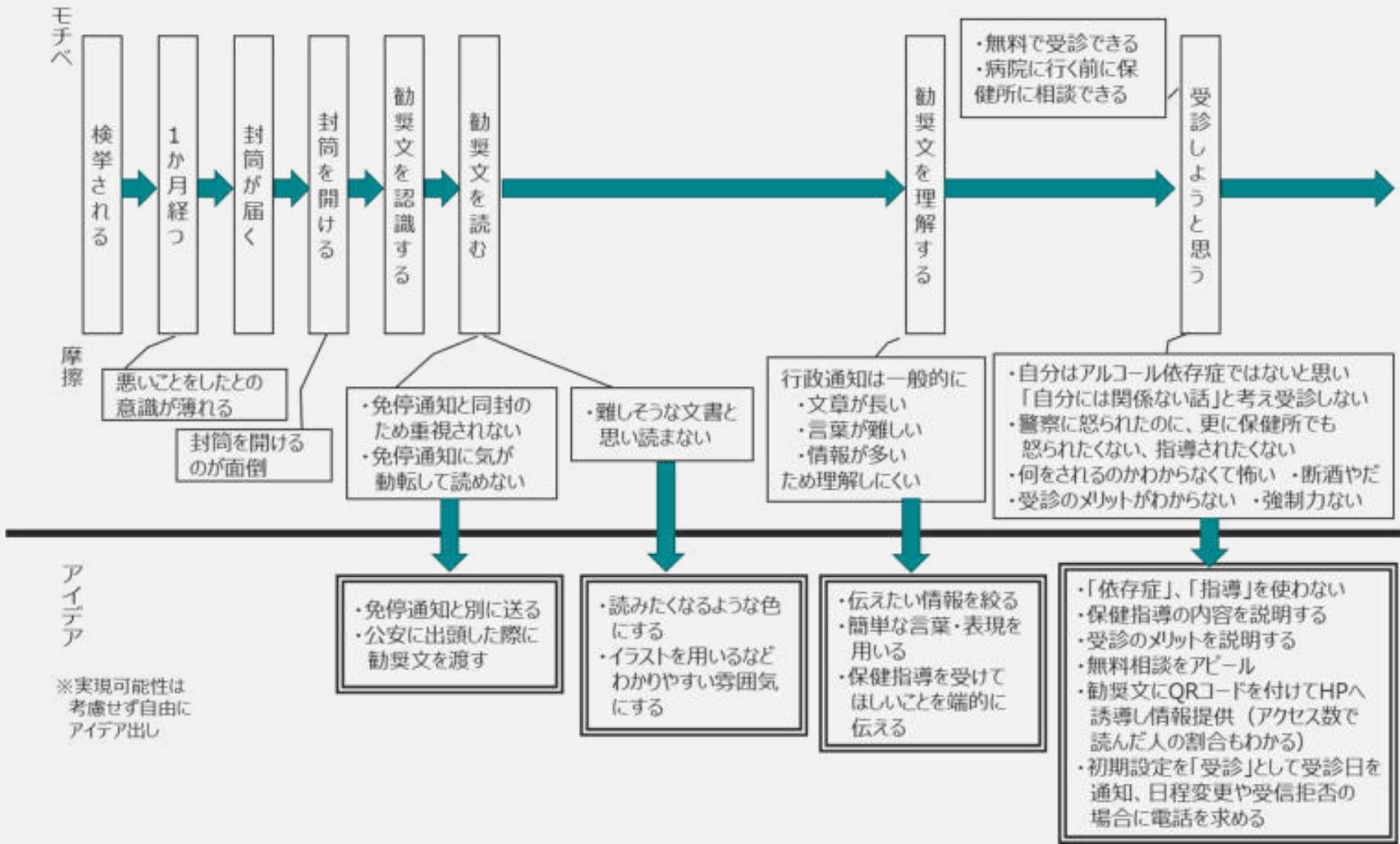
- ☑ **勉強会** … ナッジ理論とデザイン思考の基礎を習得する。
- ☑ **ワークショップ** … **プロセスマップ**を作製し、保健指導率改善に向けた行動を分解し、心理要因等を洗い出す。
- ☑ **ゼミ発表（相談）** … ナッジの素案について、NPO法人PolicyGarageゼミにて発表、相談することでブラッシュアップを図る。



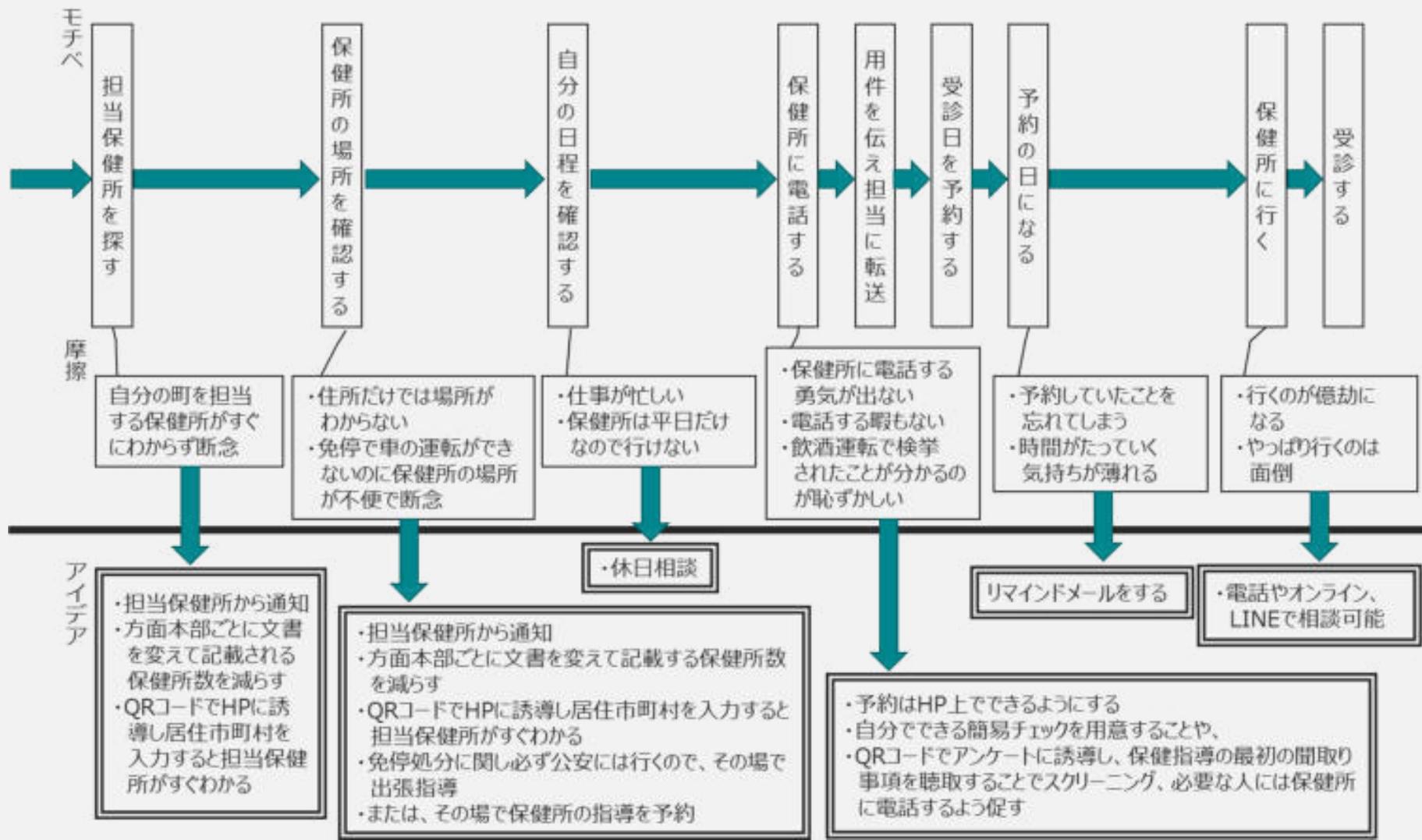
ワークショップの様子  
(総務課、道民生活課、HoBiT  
の3者でプロセスマップを作製)



## プロセスマップ① 行動介入のタッチポイントや介入内容を検討。



## プロセスマップ② 行動介入のタッチポイントや介入内容を検討。

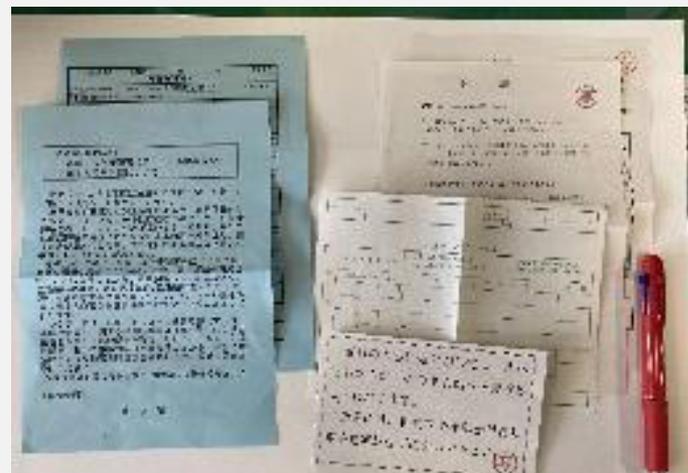


- ☑ 実現可能性を考慮し、現行の勧奨文書について、**ナッジによる改善を図る（明確な動作指示、目を引く設計（デザイン）など）**こととした。
- ☑ 勧奨文書のナッジ案として、2パターン作成し、道内に5つある各方面本部で配布する勧奨文書を分けることで、**2パターンの比較検証**を行う。  
（R4年度に比較検証予定）

現行の保健指導勧奨文書



封筒の中身

勧奨文書 2枚  
(青色)行政処分関係書類  
(白色)

## Before

現行の勸奨文書

A5サイズ（両面印刷）× 2枚  
※ 2つ折りで封筒に封入



## After

ナッジを活用した改善案

A4サイズ（両面印刷）× 1枚  
※ 4つ折りで封筒に封入



封筒開封時、4つ折りした勸奨文書の表紙左上のメッセージが最初に見えるよう、設計。

パターン①

パターン②

## Before

現在の勧奨文書 1枚目 ※A5サイズ

## 【飲酒運転再発防止】

アルコール健康障害（アルコール依存症など）  
に関する保健指導について

北海道では、「北海道飲酒運転の根絶に関する条例」（H27.12.1施行）を制定しています。

専門機関が実施した調査結果によると、飲酒運転をした方の中には、アルコール依存症などのアルコール健康障害を有している方の割合が高いとされており、自分では健康障害の発症に気づかないまま飲酒を繰り返し、健康障害が重度化したり、飲酒運転による事故など重大な事故を起こす危険性があります。

そのため、早期にアルコール健康障害の疑いに気づき、必要な医療や支援につながることで、飲酒運転の再発を防ぐことになることから、本条例第12条2項において、飲酒運転の再発防止を図るため、飲酒運転をした方には、居住地を所管する保健所等において、アルコール健康障害に関する必要な保健指導を受けていただくこととしております。

つきましては、別紙「アルコール健康障害（アルコール依存症等）に関する保健指導実施機関一覧」により居住地を所管する保健所等を確認いただくとともに、各保健所等において相談対応日が異なることから、事前に電話などにより相談日時を調整された上で、保健指導をお受けください。

（※保健指導を受けられる際は、本勧奨文書を持参ください。）

【裏面参照】

北 海 道

（表面）

【北海道飲酒運転の根絶に関する条例】 抜粋  
（飲酒運転の予防及び再発の防止のための措置）

第12条2

道は、飲酒運転の再発の防止のため、飲酒運転をした者に対し、地域保健法（昭和22年法律第101号）第5条第1項の規定により設置された保健所等によるアルコール健康障害に関する保健指導を受けるよう促すとともに、当該飲酒運転をした者に係るアルコール関連問題（アルコール健康障害対策基本法第7条に規定するアルコール関連問題をいう。）の状況に応じた指導、助言、支援等を行うものとする。

【条例に関する照会先（所管部局）】

北海道環境生活部くらし安全局道民生活課

（TEL 011-204-5219）

【アルコール依存症の相談等に関する照会先（所管部局）】

【依存症等の施策全般】

北海道保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

（TEL 011-204-5279）

【依存症等の相談・保健指導】

別紙「アルコール健康障害（アルコール依存症等）に関する保健指導実施機関一覧」のとおり

（裏面）

## Before

現在の勧奨文書 2枚目 ※A5サイズ

アルコール健康障害(アルコール依存症等)に関する保健指導実施機関一覧			
実施機関名	郵便番号	住 所	電話番号
所 管 市 町 村 名			
札幌こころのセンター	060-0042	札幌市中央区大通西1丁目WEST10 4階	011-540-7182
札幌市	注1)上記センターの事務所付電話は毎週水曜日12:00~18:00の開設です。		
道庁市保健福祉部健康づくり課健康相談	040-8994	函館市東葉町4番13号	0158-21-3077
函館市			
旭川市保健所	070-8525	旭川市7条通10丁目 旭川市第2庁舎内	0166-26-1111
旭川市			
小樽市保健所	047-0033	小樽市富岡町1丁目5番12号	0134-23-3110
小樽市			
北海道釧路保健所	041-8351	函館市美原4丁目6番18号	0126-47-9548
北4市 松前町 種島町 知内町 本吉内町 七飯町 釧路町 森町			
北海道江津保健所	043-0043	江津町字本町63番地	0138-52-1053
江津町 上ノ国町 津久別町 乙部町 美幌町			
北海道八雲保健所	049-3112	八雲町末広町120番地	0127-62-2168
八雲町 長万町 今金町 せたな町			
北海道江別保健所	059-0811	江別市緑町4番地の1	011-383-2111
江別市 石狩市 旭川町 新穂津村			
北海道千歳保健所	066-8888	千歳市東葉町4丁目2番地	0123-23-3178
千歳市 恵庭市 北広島市			
北海道倶知安保健所	044-0001	倶知安町北1条東2丁目 株式会社庁舎内	0138-23-1957
倶知安町 網走町 雄勝町 東旭川町 東旭町 二子町 真狩町 留寿村 喜茂別町 京極町 倶知安町 横内町 古平町 仁木町 余市町 志井田村			
北海道管内保健所	045-0022	管内町字津佐252番地の1	0128-62-1837
共和町 管内町 泊村 神楽内村			
北海道岩見沢保健所	048-8338	岩見沢市8条西6丁目 空知合庁庁舎内	0126-20-0122
夕張市 岩見沢市 滝川市 二子町 南穂町 由仁町 長沼町 栗山町 月形町			
北海道滝川保健所	070-0023	滝川市緑町2丁目3番31号	0125-24-6201
滝川市 赤平市 滝川市 砂川市 穂志内市 登川町 上杉町 滝川町 新十津川町 南郷町			
北海道深川保健所	074-0002	深川市2条18番6号	0164-23-1421
深川市 妹背町 妹背町 北竜町 田原町			
北海道室蘭保健所	051-9353	室蘭市南岸町1丁目4番1号 むろふもろふセンタービル2階	0142-24-9048
室蘭市 登別市 伊達市 豊浦町 社管町 洞爺湖町			

(表面)

実施機関名	郵便番号	住 所	電話番号
所 管 市 町 村 名			
北海道苫小牧保健所	062-0021	苫小牧市若草町2丁目2番21号	0144-34-4168
苫小牧市 苫小牧市 藻谷町 安室町 七かわ町			
北海道清川保健所	067-0007	清川町東町ものみ3丁目1番6号	0146-22-2071
清川町 積丹町 北見市			
北海道野内保健所	066-0005	野内町こうせい町2丁目8番1号	01464-2-0231
野内町 平取町 秋田町 磐ひだか町			
北海道上川保健所	078-8810	上川町南5条10丁目1番1号 上川合庁庁舎内	0166-46-5892
雄加内町 釧路町 東神楽町 池田町 北見町 愛別町 上川町 東川町 美瑛町			
北海道名寄保健所	066-0005	名寄市東5条南3丁目63番地3B	0154-3-3121
士別市 名寄市 和寒町 剣淵町 下川町 美瑛町 豊後平野村 中川町			
北海道室蘭保健所	076-0011	室蘭市南末広町2番10号	0167-23-3161
室蘭市 土室長野町 中室長野町 南室長野町 占冠村			
北海道網走保健所	077-0027	網走市北之江町2丁目1番地 空知合庁庁舎内	0164-42-6327
留寿村 増毛町 小平町 湧別町 羽橋町 朝山町 遠別町 天塩町			
北海道稚内保健所	067-8525	稚内市東54丁目2番27号 空知合庁庁舎内	0162-33-2702
稚内市 雄勝町 鷹栖村 浜頓別町 中頓別町 枝幸町 豊富町 札文町 利尻町 利尻富士町			
北海道北見保健所	060-8518	北見市東葉町6番6号	0157-24-4171
北見市 美幌町 滝川町 新十津川町 釧路町			
北海道網走保健所	060-8505	網走市北7条西3丁目 オホーツク合庁庁舎内	0162-41-0687
網走市 網走町 津別町 小清水町 大空町			
北海道紋別保健所	064-8842	紋別市南が丘町1丁目6番地	0158-23-2108
紋別市 佐呂間町 遠軽町 滝川町 滝上町 美幌町 西興村 越中町			
北海道帯広保健所	060-8508	帯広市東3条南3丁目1 十勝合庁庁舎内	0155-21-8110
帯広市 野田町 土堤町 東通町 駒瀬町 清水町 野田町 中札内町 愛別町 天塩町 広尾町 美幌町 田原町 豊後町 本別町 足寄町 静内町 滝川町			
北海道網走保健所	065-0026	網走市城山2丁目4番22号	0154-65-5811
網走市 網走町 藤井町 浜中町 穂高町 赤平町 釧路町 釧路村 釧路町			
北海道根室保健所	067-0009	根室市南末広町2丁目1番地	0153-23-6161
根室市			
北海道中標津保健所	066-1001	中標津町東1条南6丁目1番地3	0153-72-2168
新楚町 中標津町 標津町 羅臼町			

(裏面)

## After

### パターン① 義務感を強めに表現 ※A4サイズ

### フレームワーク“EAST”の各要素で整理 (Easy, Attractive, Social, Timely)

#### 義務感を強調するため、黄色の用紙を採用 (Attractive)

**損失回避 (Attractive)**

北海道の各県に基づき  
検挙検定率を掲載します

このデータがわかることで...

4名検定率 の平均	22年
中学生が 検出率 の平均	約3割

このデータがわかることで...  
検出率を改善しよう

まずは、保健指導に活用ください

飲酒運転の危険性  
アルコールによる健康被害を  
持っているかもしれません

飲酒運転による検挙率  
- 検出率の上昇  
- 検出率の上昇による検挙率の上昇  
- 検出率の上昇による検挙率の上昇

検出率の上昇による検挙率の上昇  
- 検出率の上昇による検挙率の上昇  
- 検出率の上昇による検挙率の上昇

相談実績500件  
**社会規範 (Social)**

目線の動きを  
配慮し、相談  
先一覧を整理  
**(Easy)**

全道すべての  
相談一覧  
から、勧奨  
文書を配布  
する方面本  
部毎に最低  
限必要な情  
報に削減  
**(Easy)**

**行動指示  
の簡略化 (Easy)**

相談先一覧

- 1 表裏の相談先一覧を印刷してください。
- 2 必要な市町村で配布する検挙率等のデータを印刷してください。
- 3 この資料の活用を推進し、本誌を掲載するため、各都府県に配布いたします。

お問い合わせ先  
北海道保健指導センター  
〒060-0801 札幌市中央区南一条西五丁目1番1号  
TEL: 011-241-2111

相談先一覧

市町村名	相談先電話番号
札幌市	011-241-2111
旭川市	0142-22-1111
釧路市	0155-22-1111
帯広市	0157-22-1111
旭川市	0142-22-1111
釧路市	0155-22-1111
帯広市	0157-22-1111
旭川市	0142-22-1111
釧路市	0155-22-1111
帯広市	0157-22-1111

(表面)

(裏面)

After

パターン② 飲酒運転違反者へ寄り添う表現 ※A4サイズ

フレームワーク“EAST”の各要素で整理 (Easy, Attractive, Social, Timely)

寄り添う表現を強調するため、淡い緑色の用紙を採用 (Attractive)

読み手に寄り添う (Attractive)

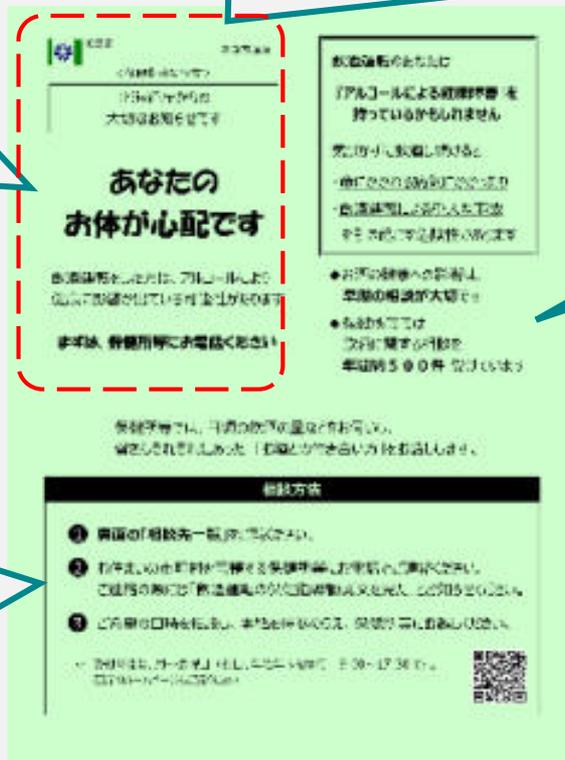
※表紙左上部分が封筒開封時に最初に見えるよう設計

行動指示の簡略化 (Easy)

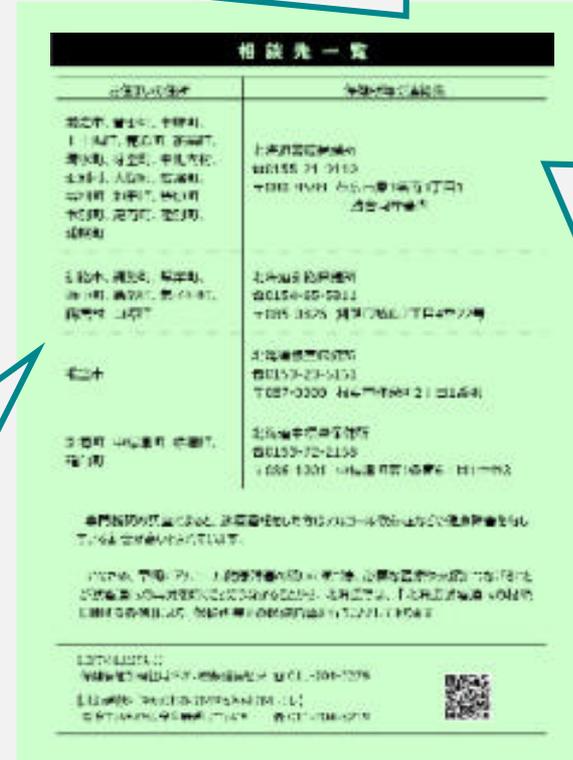
相談実績500件 社会規範 (Social)

目線の動きを配慮し、相談先一覧を整理 (Easy)

全道すべての相談一覧から、勧奨文書を配布する方面本部毎に最低限必要な情報に削減 (Easy)



(表面)



(裏面)

## 今後の予定

- ☑ R4年度から、勸奨文書改善案（パターン①、パターン②）を試験導入し、比較検証を行う。

区分	配布する指導勸奨文書
札幌、函館、旭川 方面	パターン① 
釧路、北見 方面	パターン② 

## (3) 官学連携の取組み

## 目的

「高齢者のワクチン接種行動の促進（VALUE Project）」に参画し、**官学連携**のもと、ナッジとデザイン思考による課題解決（ワクチン接種行動の促進）を試行する。

## 事例5 高齢者のワクチン接種行動の促進（VALUE Project）

### 高齢者のワクチン接種行動の促進

#### VALUE Project

The **V**accines for **A**ll: **L**ongevity  
**U**nleashed for **E**veryone



VALUE Projectは、新型コロナウイルスのほか、インフルエンザウイルスなども含めた広範のワクチンを対象としている。

- ☑ ワクチンで予防可能な病気への罹患を防いで、日本の高齢者のヘルシー・エイジングを促進することをめざし、2021年2月にプロジェクトがスタート。
- ☑ 3つの研究チームが、3年にわたりこの課題に取り組む。  
（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科、日本医療政策機構、  
The International Longevity Centre-UK（国際長寿センター））

**事例 5**  
**高齢者のワクチン接種行動の促進**  
**(VALUE Project)**

【目的】 高齢者のワクチン接種行動を促進し、感染症に強い地域コミュニティ形成に貢献する。

【背景】

- ✓ 「ワクチン忌避」は「世界の健康に対する10大脅威」のひとつ（※）。
- ✓ 特に、日本は、高齢者のワクチン摂取率が極めて低い状態が継続しており、高齢者のワクチン接種行動をさせることは、地域コミュニティの健康増進を図るためには極めて重要。

官学連携のもと「ナッジ×デザイン思考」を実践し、道内におけるワクチン接種行動の促進、感染症に強い地域コミュニティの形成に貢献する。

※ 日本WHO協会HP <https://japan-who.or.jp/news-report/10-threats-to-global-health/>

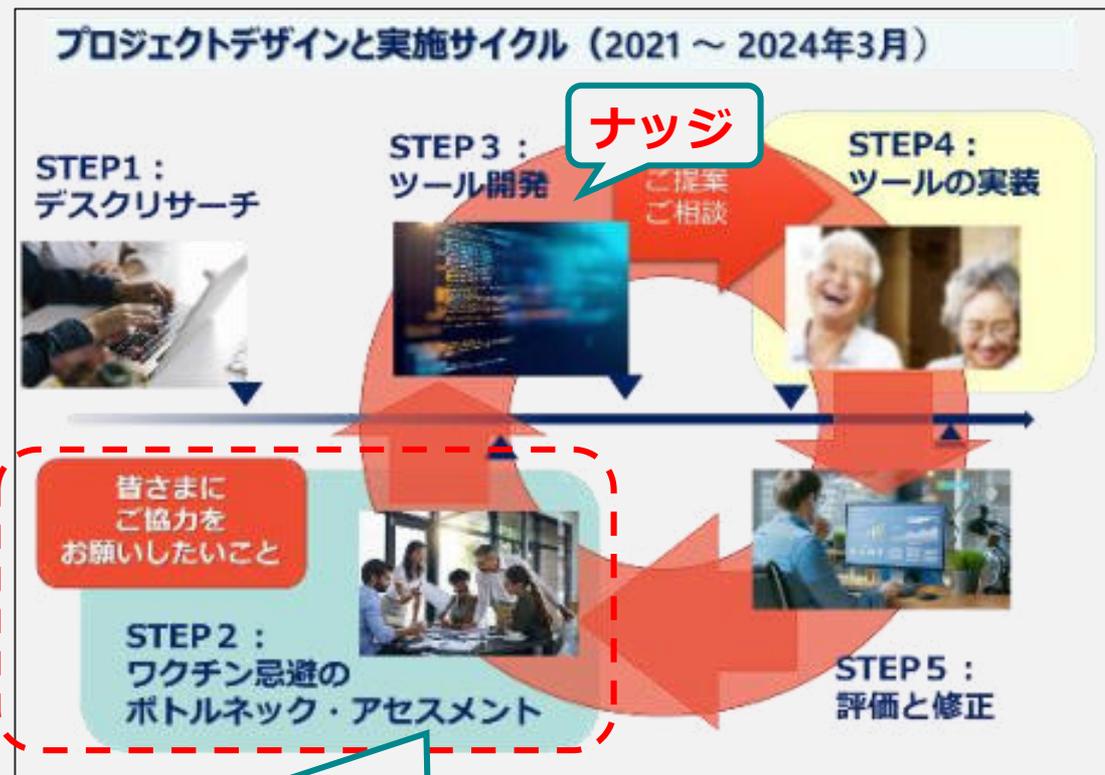
アウトカム

ワクチン接種率の改善

対象場所  
対象者

道内自治体等の住民  
(高齢者)

## VALUE Projectの実施概要図



VALUE Projectチームより恵与された資料を一部加筆

R3年度は、**2つの自治体・地域と連携体制を構築**し、現地関係者への**インタビュー等を実施**。R4年度に、当該自治体・地域にてワークショップ形式のボトルネック・アセスメントを実施予定。

## 事業②【総括】先導事例を創出する

### ☑ 事例1 デザイン思考のフレームワークを実践し、ナッジを検討。

⇒デザイン思考の実践により、HoBiTを含めた関係者間で目的意識の共有が図られ、効果的で実現可能性のあるナッジの検討ができたことで、「ナッジ×デザイン思考」の有用性が確認できた。

### ☑ 事例2,3,4 事業設計・伴走支援の取組みを試行。

⇒支援依頼に対し、勉強会、ワークショップの開催や詳細設計を共創することで、庁内関係各課や庁外関係者を巻き込んだ「ナッジ×デザイン思考」の好事例を創出することができた。

### ☑ 事例5 官学連携のもと、道内自治体等のインタビュー等を実施。

⇒R4に予定しているワークショップ形式のボトルネック・アセスメントの実践に向けて、関係者との信頼関係を構築できた。

## 事業③

支援体制を整備する

- 活用を検討する**行政ほか地域主体への支援体制を整備**  
→ 道内・道外のネットワークを構築するほか、Slack運用により相談対応力を強化

## ネットワークの構築

✔ ナッジ、デザイン思考に取り組む各研究会に参画、有識者や実践者と関係を構築。



✔ 情報共有ツール“Slack”を利用し、道庁内関係者に留まらず、市町村職員や民間なども包括したネットワークを形成



## 事業③【実績、総括】 支援体制を整備する

### ☑ NPO法人Policy Garage研究会（毎月第2水曜日に開催）

⇒ ナッジ、デザイン思考等に取り組む省庁職員、全国の自治体職員と交流。  
また、**12月研究会ではHoBiTの活動内容を発信し、ネットワークを強化。**

### ☑ 全国自治体ナッジユニットゼミ（毎月第1、3、4月曜日に開催）

⇒ ゼミにて、「エゾシカの交通事故対策」、「飲酒運転違反者への保健指導促進」の**検討事例を議論**するなど、全国の関係者との**実践的な相談体制を強化。**

### ☑ チームコミュニケーションツール“Slack”

⇒ ナッジセミナー等のイベントを契機に、庁内職員や道内自治体職員等に参加を呼び掛けた結果、R3.3時点におけるSlack参加者は52人まで増加。

# 目次

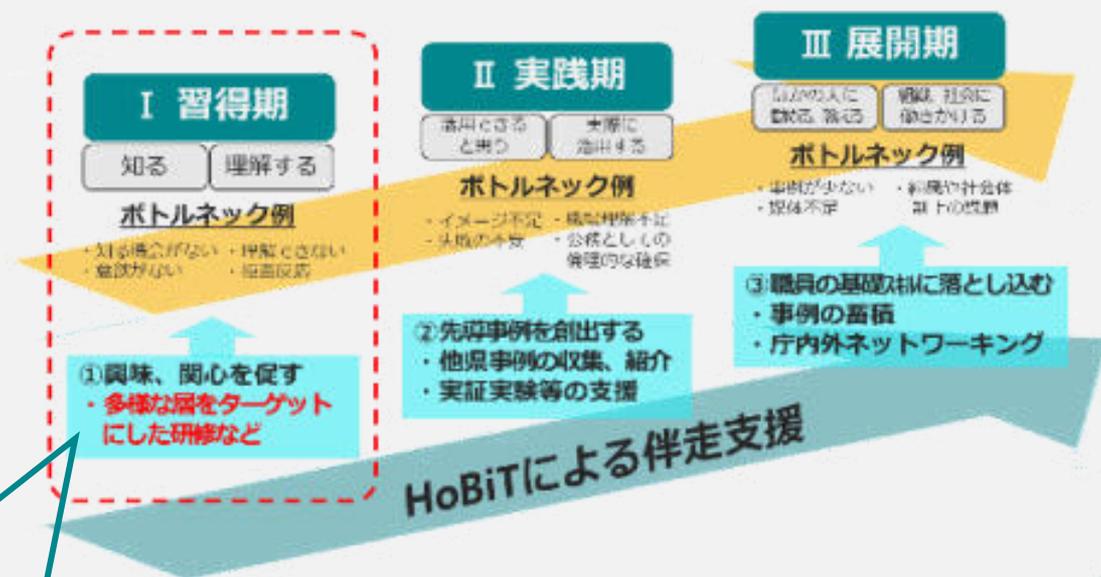
概要説明 (ナッジとデザイン思考)

事業趣旨及び内容

事業実績

▶ 道政への適用に向けて

- 「ナッジとデザイン思考」の興味、関心を促すための情報発信やイベントを実施してきたが、更なる普及、展開のためには、これまでのイベント等に加え、**職員研修等**の実施が有効。



普及、展開イメージ図

興味、関心を促すターゲットの人物像  
(1) 興味のある職員 (能動的に参加)  
(2) 興味のない職員 (自ら参加しない)

(1) は、これまでのイベント等で対応可能。  
(2) は、職員研修等をデフォルト化することで対応可能。

- ☑ 総務部人事課と協議のうえ、職員研修（階層別研修）のうち、**「新任主任級研修」にてナッジとデザイン思考の研修**を行うことで調整。

**新任主任級**  
～コミュニケーション力を高め、キャリアをデザインする～

**目的** 組織を支える中堅職員として、これからのキャリアを考え、より主体的・積極的に行動できるよう必要な知識やスキルを習得する。

**ポイント** キャリアデザインの必要性と手法を学び、立場に応じた能力向上の意図を高めるとともに、中堅職員に求められるコミュニケーション能力の向上を図ります。

**対象者** 新任の主任級職員（30名）  
（注）新任主任級職員（次年度受講）

**日程** 2日間、全5回（サテライト開催）  
第1回：5月17日（火）～5月18日（水） 本庁・石狩・稚内・紋別・網走  
第2回：5月23日（月）～5月24日（火） 本庁・石狩・上川・十勝  
第3回：5月30日（月）～5月31日（火） 本庁・石狩・釧路・渡島・樺太  
第4回：6月6日（月）～6月7日（火） 本庁・石狩・オホshima  
第5回：6月13日（水）～6月14日（木） 本庁・石狩・空知・旭川・網走

**開催日程**

時間	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00
1日目	開会式 （10:00～10:30）	ナッジ （10:30～12:00）	デザイン 思考 （12:00～13:00）	休憩 （13:00～14:00）	行動デザイン （14:00～15:00）	行動デザイン （15:00～16:00）	行動デザイン （16:00～17:00）	閉会式 （17:00～17:30）	
2日目	行動デザイン （9:00～10:00）	行動デザイン （10:00～11:00）	行動デザイン （11:00～12:00）	行動デザイン （12:00～13:00）	行動デザイン （13:00～14:00）	行動デザイン （14:00～15:00）	行動デザイン （15:00～16:00）	行動デザイン （16:00～17:00）	閉会式 （17:00～17:30）

**講師** 【生活性企画の実務改善法等】 Neil Denny 代表 顧問 野二  
【その他】 内務（内内）講師

研修名：行動デザイン・ナッジ理論

時間：50分

講師：北海道行動デザインチーム（HoBiT）

職員研修の実践により、ナッジとデザイン思考の普及、そして道政への適用に向けた足掛かりとする。

厳しい財政や複雑な地域課題に直面する中で、質の高い行政サービスを展開していくには、根拠に基づきながら、等身大の人間の行動を想定した、真に効果のある政策立案とその実践が求められます。

ナッジに代表される行動デザインは、人の普遍的な行動特性を対象とするため、人がそこに介在さえしていれば、あらゆる政策分野に適用可能で、政策手法としても幅広い応用性・補完性を有していることから、我々が目指す真に効果のある政策の実現に向けて、極めて有効なツールの一つだと考えられます。

また、デザイン思考は、ナッジをはじめとした政策手法の効果を最大限発揮するための、政策立案における基本的な考え方と言えます。厳しい財政や複雑な地域課題に直面している行政だからこそ、「ユーザー（住民）目線」を軸としたデザイン思考が求められています。

ナッジ、そして、デザイン思考。この両輪が生み出す好循環を、多くの道内主体に普及展開し、優れた道政の実践に繋げるべく、引き続きチーム一同、活動してまいります。ご一読、誠にありがとうございました。

## ○ 有志メンバーとして事業を支えてくださった方々

福田 佳英 働き方改革推進室長（道経済部労働政策局雇用労政課）／山本 勝博 総括主査兼航空係長（道総合政策部航空局航空課）／宇山生朗 氏（道環境生活部ゼロカーボン推進局ゼロカーボン戦略課／北海道環境財団）

## ○ 各事業に賛同し、専門家や実践者として知恵を惜しみなく提供してくださった方々

**事業①** 佐々木 周作 准教授（東北学院大学）／米一 彰夫 代表運営委員（北海道自治体学会）／安田 あきの 事務局長（北海道自治体学会）／吉田 博 運営委員（北海道自治体学会）／奥寺 大介 氏（金融庁総合政策局総合政策課）／空知総合振興局保健環境部保健行政室（北海道岩見沢保健所）生活衛生課

### **事業②** 【事例1 エゾシカの交通事故対策】

佐々木 周作 准教授（東北学院大学）／久保 雄広 主任研究員（国立環境研究所）／山本翔平 特任講師（一橋ビジネススクール）／Oyuri（ナッキングデザイナー）／原文宏 理事（一般社団法人北海道開発技術センター）／山崎秀次 事務局長（釧根地区レンタカー協会）／国土交通省北海道開発局／一般社団法人北海道開発技術センター／株式会社トヨタレンタリース釧路／タイムズモビリティ株式会社／ニッポンレンタカー北海道株式会社／株式会社日産カーレンタルソリューション／オリックス自動車株式会社

### 【事例2 道職員の石けん手洗い促進】

大沼 進 教授（北海道大学）／道新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室

### 【事例3 大学構内における食ロス対策】

安倍 隆 会長（えべつ地球温暖化対策協議会）／岡崎 朱美 副会長（えべつ地球温暖化対策協議会）／安田 光孝 教授（北海道情報大学）／杉澤 愛美 講師（北海道情報大学）／糸井川 高穂 助教（宇都宮大学）／植竹 香織 代表（Policy Nudge Design）／鈴木 昭徳 本部長補佐（SDGs推進担当）（生活協同組合コープさっぽろ）／渡邊 大介 エコチームリーダー（(株)アレフ）／道農政部食の安全推進局食品政策課

### 【事例4 飲酒運転検挙者への保健指導促進】

環境生活部総務課／環境生活部くらし安全局道民生活課／保健福祉部福祉局障がい者保健福祉課

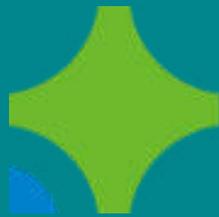
### 【事例5 高齢者のワクチン接種行動の促進（VALUE Project）】

小池 智子 准教授（慶應義塾大学）／葛城 建史 講師（北里大学）

**事業③** 津田 広和 代表理事（NPO法人Policy Garage）／志水 新 理事（NPO法人Policy Garage）／高橋 勇太 代表（横浜市行動デザインチーム）／安藤 如照 氏（岡山県版ナッジ・ユニット）／植竹 香織 代表（Policy Nudge Design）／NPO法人Policy Garage

## ○ 職員の熱意による活動を快くサポートしてくださった方々

鈴木 直道 知事（北海道）／小玉 俊宏 副知事（北海道）／森 隆司 部長（道環境生活部）／濱坂 真一 部長（道総合政策部）／今井 太志 ゼロカーボン推進監（道環境生活部）／和田 弘之 次長兼政策局企画担当局長（道総合政策部）／中村 昌彦 局長（道総合政策部政策局）／山田 哲史 局長（道環境生活部ゼロカーボン推進局）／道総合政策部政策局／道総務部人事局人事課



北海道行動デザインチーム

Hokkaido Behavioral insight Team